TONARI

2014 夏号

グッドネーバーズ・ジャパン会報

CONTENTS

-フィリピン台風 小学校の校舎再建
-READYFORスリランカの幼稚園におもちゃを！
-チャド ヨナスクール初めての卒業式
-ケニア 少年サッカーチーム設立
-寄付で宇宙旅行へ！Ticket To Riseキャンペーン
-『希望の手紙コンテスト』スタート
-「子どもの権利条約」通報制度発効
-『プロジェクトサポーター』募集中！
-チャリティ自動販売機を設置しませんか？

海外事業

緊急支援

フィリピン台風　小学校の校舎再建

被災したスランガン小学校

半壊したままの校舎

着工式の様子

副市長からの挨拶

新校舎に期待を寄せる住民

2013年11月8日にフィリピン中部を襲った大型台風30号（ハイエン）。発生から8か月が経ちますが、被災地ではいまだに多くの人々が支援を必要としています。

グッドネーバーズは災害発生直後から救援物資の配布等の活動に取り組んできました。そして今後も長期的な支援を行うため、甚大な被害を受けた東サマール州ギワンに事務所を構え、現在も活動を続けています。地域住民や地元政府と対話を重ねながら活動する中で、最も多く挙がった要望は、被災した学校の校舎再建でした。

今年1月から2月にかけて、グッドネーバーズ・ジャパンがギワンにて実施した子どもの学習環境改善事業によって、仮設教室となるテントや教室備品、文房具等を地域内12の学校に提供し、子ども達が安心して学校に通える環境を整えることができました。

しかし、テントはあくまで仮設教室であり、耐久年数も長くないため、一刻も早く校舎そのものを再建する必要があります。政府としても被災した全ての学校を一から再建するという方針を打ち出しているものの、被災校数の多さや資金不足により対応が追い付いていません。そこでグッドネーバーズは校舎再建プロジェクトの実施を決定しました。

再建工事に先立ち、現地では6月9日に着工式が行われました。生徒の保護者をはじめとする地域住民や副市長が出席し、新しい校舎に期待を寄せて完成を心待ちにする様子が伺えました。※この事業は一部「フェリシモ地球村の基金」の助成を受けて実施されます。

【支援概要】

期間：2014年6月初旬～9月初旬

対象：スランガン小学校、バルボ小学校（いずれも東サマール州ギワン）

支援内容：災害時の避難所としても利用できる校舎の再建

皆のための、頑丈な校舎を

小学校の校舎が再建されると、子ども達や住民に多くのメリットがあります。
まず、校舎を建てるための場所を確保するためにがれきの撤去が必須となり、滞っている撤去作業を進めることができます。いつ、また災害が発生するか分からない中で、敷地内にがれきや壊れかけた教室が残っている状況は非常に危険であり、それらの処理が進むことで安全に一歩近づきます。

また新しい校舎は、教育省で規定されている基準に則った品質の高い材料を使って建てられます。ギワンの建物がほとんど崩壊した要因は、基準を満たさない建物が多かったことも挙げられます。新校舎は台風や地震などの災害に強い頑丈な建物になるので、子ども達は安心して学校で授業を受けられるようになります。災害時に経験した恐怖からトラウマを抱えている子どもも、再び学校に通えるようになります。

さらに、学校は災害発生時の避難場所になります。昨年の台風30号（ハイエン）の際も、住民達が学校に避難をしましたが、次々と屋根が飛ばされ、壁が崩れていき子どもだけでなく大人達も大きな恐怖を味わったそうです。今回の再建により、次に災害が発生した際には住民が安心して避難できる丈夫な校舎に生まれ変わります。

校舎再建プロジェクトは、ただ元の状態に戻すことではなく「よりよく建て直す」ことがゴールです。子ども達の、そして住民皆のための安全で頑丈な校舎の再建を目指します。

コミュニティ開発

実施決定！スリランカの子ども達におもちゃを贈ろう！

スリランカの都市コロンボから車で3～4時間程行くと、一面にお茶畑が広がる農園地帯があります。スリランカのいくつかの地域を視察していたスタッフの齋藤は、この地域の幼稚園を訪れた際、幼稚園にはあって当たり前のものが全く無いことに気づきました。それは、子ども達が遊ぶおもちゃや遊具です。幼稚園の先生に尋ねると、経済的な理由でおもちゃを買い揃えられないことが分かりました。

この地域では多くの住民が日雇い労働者として生計を立てています。1日働いても給料は約500円と低く、天候や時期によって仕事の有無が左右される不安定な職業です。

日雇い労働で得たわずかな収入では、最低限必要な生活費をまかなうことで精一杯です。そのため子どもを預けていても養育費を払えない家庭が多く、地域の子ども達が通う幼稚園には、おもちゃを買うほどの余裕がないのです。また、コミュニティーから小さな土地を借りて幼稚園を運営しているため、ブランコ等の遊具や、走りまわって遊べるスペースも敷地内にはありません。子ども達は両親が働いている間、ずっとお絵かきをして待っているしかないのです。

積み木で一生懸命お城を作ったり、どれくらい高くまで積み上げられるか試したり、ぬいぐるみやお人形をつかって、お友達とごっこ遊びをしたり…日本では当たり前に思われる、子ども達の「遊ぶ機会」を、このスリランカの子ども達は持っていません。しかし、おもちゃは子ども達を楽しませるだけでなく、友達と皆で遊ぶことにより社会性が身に付くなど成長に欠かせないものです。

どんな地域に住んでいても、どんな状況であったとしても、子どもならお友達と一緒に遊べなければ…。そんな思いから、スリランカの子ども達におもちゃを贈るプロジェクトを立ち上げ、クラウドファンディングサービス「READY FOR?」にて多くの方の支援を募りました。

おもちゃのない幼稚園の教室

先生と一緒にお絵かきをする子ども達

幼稚園の子ども達と先生達

クラウドファンディング“READY FOR?” とは？

クラウドファンディングは、インターネットを介して不特定多数の個人から資金（支援金）を集めるサービスです。新しい資金調達の手段として注目されており、世界中で500以上のクラウドファンディングサービスが存在します。READYFOR は日本で最初の、そして最大のクラウドファンディングサービスです。(READY FORホームページより抜粋) あらかじめ設定した目標額を期間内に集められた場合のみ、支援者からの寄付を受け取り、プロジェクトを実施することができます。

おもちゃの購入資金として30万円を目標に支援を募った結果、58人の皆様から合計349,000円ものご支援をいただき目標を達成！プロジェクトを実施できることになりました。

【支援概要】

対象： ラトゥナプラ地域内の３つの幼稚園

(アルノダヤム幼稚園 / ディレナタル キッズホーム幼稚園 / ヴィジョンキッズ幼稚園)

支援内容：未就学児向けのおもちゃと整理用の棚を提供

文字を学べるおもちゃも購入

スリランカから感謝のメッセージ！

ご寄付をくださった皆様はもちろん、応援してくださった方、協力を呼び掛けてくださった方など、多くの方のお蔭でこのプロジェクトを実施できることになりました。実施決定の知らせを聞いたスリランカのスタッフからは、喜びの声が届きました。英語、シンハラ語、タミル語に加え日本語でも、「ありがとう」と書いてあります。 ご協力に感謝し、皆様の想いをスリランカの子ども達に届けます。

コミュニティ開発

ヨナスクール　初めての卒業式

アフリカ、チャドのファシャアテレ地域にある「ヨナスクール」で2014年3月、初めての卒業式が行われ、18名の子ども達が学校を旅立ちました。

ヨナスクールは、グッドネーバーズの広報大使としてボランティア活動に尽力されていた故パク・ヨンハさんの呼び掛けにより、日本の皆様からたくさんのご寄付を頂いて建設された小学校です。

故パク・ヨンハさんご自身も基礎工事を手伝い、2010年に273名の生徒達を迎えて開校したヨナ・スクールは、それまで学校のなかったファシャアテレ地域に大きな希望の光をもたらしてくれました。現在では700名以上の子ども達がここで学び、将来の夢を育んでいます。さらに学校関連で新たな雇用が生まれたり自治会ができたりと、地域活性にも繋がっています。

そして開校から5年目。ヨナスクールにとって初めての卒業生が誕生し、地域の皆が喜びを分かち合いエールを送りました。ヨナスクールの子ども達は、今も“ヨナ”（故パク・ヨンハさんの愛称）のことをよく覚えています。一緒に学校を建てる煉瓦を運んだこと、サッカーしながら汗をかいたこと。大切な思い出を胸に学校を旅立つ生徒達には、「学ぶ機会が生き方を変えられる」という故パク・ヨンハさんの思いがしっかりと伝わったようです。

卒業生から感謝の手紙

式典では、卒業生を代表してアチェクくん（12歳）が、感謝の思いを綴った手紙を読み上げました。

「ヨナは私たちに勉強する機会を、そして優しい先生や友達と出会う機会を与えくれました。ヨナは私たちの人生を変えてくれました。私たち卒業生はヨナに感謝し、彼の生き方を学び、実践したいと思っています。ありがとう。」

ファシャアテレにはこれまで馴染みのなかった“卒業式”。生徒と先生はもちろん、保護者や地域中の人々にとって忘れられない祝典となりました。

故パク・ヨンハさんの想いと皆様のご支援によって、子ども達が学校に通い夢を育むことができるようになりました。ヨナスクールは、これからもたくさんの子ども達を迎え、そして送り出す希望の場所であり続けます。

地域の人々が集まった卒業式

希望に溢れる卒業生達

住民みんなで卒業生を祝福

第一期卒業生の中から3名の生徒を紹介します。どの生徒も困難な状況の中、家族やグッドネーバーズのサポーターの方々に支えられて勉強に励み、卒業の日を迎えることができました。

アヅムくん（12歳）

ヨナスクールができる前は別の町にある学校に1時間も歩いて通っていました。アヅムくんは7人兄弟ですが、そのうち3人は足に障害を持っています。彼は放課後、障害を持つ妹に勉強を教えています。
アヅムくんには、医者になって、貧しくて病院に行けない兄弟を治してあげるという夢があります。ヨナスクールで過ごした日々は、彼の夢を叶える一歩となりました。

アルバチルくん（12歳）

2010年からヨナスクールで学びました。早いうちから両親を亡くしたアルバチルくんは、7人の兄弟と共にお互いを支え合いながら暮らしています。グッドネーバーズを通してサポーター様の支援を受け、ヨナスクールに通い続けることができました。アルバチルくんの夢は、貧困で苦しんでいる地域を支えるリーダーになることです。

ハッサナくん（12歳）

8年前に感染症で母親を亡くし、祖父と暮らしています。祖父の応援や叔父さんの支えを受け、ヨナスクールで学びました。
公務員になって地域にちゃんとした病院を建て、お母さんのような病気で亡くなる人を減らすために町の発展に力を入れたいと願うハッサナくん。これからも夢に向かって勉強に励みます。

コミュニティ開発　ケニア　少年サッカーチーム設立

いまだ貧富の差を課題とするアフリカのケニアで、グッドネーバーズは子ども達の夢を応援する活動の一つとして、少年サッカーチーム”FC HOPE”を立ち上げました。

サッカーは、ケニアで最も人気のスポーツです。グッドネーバーズが活動するスラム地域にも、貧しい環境で精一杯暮らしながらもサッカー選手を夢見る子ども達がいます。今回、首都ナイロビから農村にあるメグアラを回って16名を選出し、“FC HOPE”を発足しました。

選抜メンバーの一人、サイマンくん（11歳）は、ナイロビ近郊のスラム街コロゴチョで暮らしています。腐敗したゴミが集まっているこの場所は、悪臭が立ち込め、劣悪な衛生環境にあります。サイマンくんはいつもここで食事をとり、夜は鶏小屋で寝るという生活を送っていました。

サイマンくんの他にも、4年前に片目の視力を失ったベドネゴくん（12歳）、難病を患った弟をもつウイルスンくん（14歳）など、選手に選ばれたのはそれぞれ苦難を抱えながら生活している少年ばかりです。

道端で手作りのボールを追いかけていた少年達は、今は素敵なゴールポストがあるグラウンドでユニフォームを着てボールを追いかけています。

自分の夢のために、そして家族の明日のために走る子ども達。グッドネーバーズは今後もFC HOPEの運営を続け、未来のプロサッカー選手の育成に励んでいきます。

FC HOPE 始動！

友達とサッカーをするサイマンくん（中央）

お知らせ　寄付で宇宙旅行へ！Ticket To Rise！

寄付が宇宙旅行の抽選券に！『Ticket To Rise』キャンペーン

現在グッドネーバーズが参加しているこの『Ticket To Rise』キャンペーンはアメリカを中心に全世界から寄付が集まっています。グッドネーバーズのHPからアクセスし、Ticket To Rise 特設サイトでエントリー（一口10ドルからの寄付）をすると、宇宙旅行があたる抽選に参加できます。

どうして「寄付」で宇宙旅行へ？

キャンペーンを運営しているのはアメリカの非営利団体『Urgency Network』と世界30か国からニュースを発信しているメディア『MOTHERBOARD』。このUrgency Networkは非営利団体を支えるプラットフォームとして、宇宙旅行の他に、ビートルズのリンゴ・スターと共にパーティーに出席できるチケットなど、人々に「一生に一度の体験」を提供してきました。このように多くの芸能人、著名人の協力を得て集めた寄付金を他の非営利団体に援助することで、社会問題の解決を手助けしています。

夢が現実に！正真正銘の宇宙旅行です！

これまで私達には夢のような話でしかなかった宇宙旅行ですが、近年は日本でも宇宙旅行を提供する企業が増えてきました。Ticket To Riseで使われる宇宙船『Lynx Mark II』での旅行は、日本の俳優の方も申し込むなど、国内でも話題を呼びました。

とはいえ、その料金は安くても1000万円近く、高いものだと数億円と、まだまだ現実的な料金とは言えません。

Ticket To Riseは一口10ドルからエントリーが可能で、寄付者全員にチャンスがあります！例えば100ドルを寄付すると、当選する確率は1万分の１！1000万分の1と言われている宝くじよりもはるかに可能性の高い抽選です。そして集まったご寄付はグッドネーバーズが支援する子ども達のために使われます。

夢がつまったこのチャリティキャンペーンに、皆さんも参加しませんか？

詳しくはグッドネーバーズ・ジャパンのHPでご確認ください！

お知らせ 希望の手紙コンテスト スタート

昨年初めて開催した未就学児対象の「親子でチャレンジ国際理解！ちびっこおえかきコンテスト」に引き続き、小学生を対象とした「夏休み☀親子でチャレンジ ！希望の手紙コンテスト」が開催されます。

主人公となるのはバングラデシュに住む12歳の男の子アリフ。両親のいない彼は、祖母や妹を養うため学校をやめ、工事現場で働いています。そんなアリフの夢は、飛行機のパイロットになること。仕事を終えてどんなに疲れていても、夜は妹と共に勉強に励んでいます。家族を一生懸命に支えるアリフのストーリーをDVDで家族と鑑賞し、応援メッセージを届けるのがこのコンテストです。

審査員には芥川賞作家の平野啓一郎氏、来年公開予定の映画『海街diary』の助監督をつとめる兼重淳氏をお迎えし、アリフの元へ届ける手紙を選出します。

作家　平野 啓一郎氏

映画監督　兼重 淳氏

レポート 子どもの権利条約「通報制度」発効

2014年4月14日、国連子どもの権利条約の第三選択議定書が国際的に発効しました。同議定書は、個人から国連子どもの権利委員会へ直接通報できる制度を定めたものです。これにより、人権侵害を受け、国内で救済手続きを尽くしても侵害された権利が回復されなかった場合には、子ども本人もしくは代理人が国際的に救済を申し立てることが可能になります。申し立てがあった場合は、国連が調査を行い、その国の政府に対して救済措置を求めることができます。

国連で作成された人権条約は現在9つありますが（人種差別撤廃や女性差別撤廃等）、子どもの権利条約だけが通報制度を設けていませんでした。多くの国際NGOや人権団体が、通報制度の実現を求めて国連への働きかけを続けた結果、2011年12月の国連総会において通報制度を定める議定書が採択されました。日本でも、グッドネーバーズ・ジャパンがメンバーとして名を連ねる「子どもの権利条約NGOグループ/日本」が積極的にキャンペーンを行いました。議定書が発効するためには10か国以上の批准が必要となりますが、2014年1月についにその要件が満たされ、発効に至りました。

通報制度の実現は子どもの権利を守るための大きな一歩となりましたが、重要なのは単に制度が定められることではなく、実際に効力を発揮し子ども達を人権侵害から守ることです。そのためには、日本を含む多くの国の批准が必要です。そして、子ども達自らがこの通報制度や子どもの権利条約を理解し利用できるよう、まずは大人達が人権に対する関心と理解を深めなければなりません。

お知らせ

プロジェクトサポーター募集中！

8か国の中から好きな国を選んで毎月支援していただく『定期サポーター』を、皆さまのご要望により沿った形にするため、新たに『プロジェクトサポーター』制度が加わりました！

プロジェクトサポーターでは、教育、水・衛生、緊急支援の３つの中から、ご自分の支援したいプロジェクトに月々1000円からご寄付いただけます。（国はご指定いただけません）

教育
学校や図書館の建設・運営など

水・衛生
井戸、給水施設、トイレなど

緊急支援
食糧、衛生用品、生活用品、住居の再建に必要な建築材、制服や教科書などの学用品など

■ お申込み方法■

新規の申込み

ホームページ「定期サポーター」の申込みフォームからご加入ください。

定期（国指定）サポーター・子どもサポーターからの追加申込み

下記3点をお知らせください。

①サポータ番号：会報の宛先ラベルに記載された番号

②ご支援金額：※1,000円から千円単位で任意の金額）

③支援するプロジェクト ：
教育 / 水 ・衛生/ 緊急支援のいずれか

0120-916-010（平日10時～18時）
[Email]　sup@gnjp.org

※お支払方法を変更される場合は、お手数ですが新規でお申込みください。

お知らせ

チャリティ自販機を置きませんか？

企業や店舗経営者の皆様、寄付や国際協力の分野で支援をお考えではありませんか？「チャリティ自販機」なら、簡単にそれが可能です！設置や置き換えの費用は無料。商品の補充や空き缶回収など全て自動販売機業者が行いますので、手間もかかりません。設置いただくことで、貴社・貴店の社会的な信用を高め、ブランド力を向上させながら気軽に社会貢献ができます。販売機は最新の省エネマシンで、旧型から置き換える場合は消費電力削減にもつながります。

※写真はイメージです

お問合せは FR@gnjp.org までお気軽にどうぞ！

編集後記　早いもので2014年も残すところあと半分！夏が近づくと冬物を整理する方が多いのか「古着を寄付したい」とのお問合せをよくいただきます。まだまだ着られる服が捨てられてしまうのは本当にもったいないですよね。グッドネーバーズ・ジャパンではこの「古着」を、子ども達への支援につなげられるよう、新たなキャンペーンを企画中です！処分を考えている古着がお手元にございましたら、もう少しだけお待ちください！
詳細はHPやfacebookなどでも紹介いたします♪

編集：谷口真菜美

お問合わせ・資料請求
0120-916-010（平日10時～18時）
[Email]　sup@gnjp.org

☎住所変更のご連絡をお願いします！
ご住所やメールアドレスを変更されたサポーター様は、お手数ですが、グッドネーバーズ・ジャパン事務局までお電話、またはメール(左記参照)にてご連絡ください。

子どもサポーター　検索

発行：認定NPO法人　グッドネーバーズ・ジャパン
〒143-0016東京都大田区大森北2-14-2大森クリエイトビル3階
[Tel]0120-916-010　[Fax]03-6423-1766　[Email]admin@gnjp.org
[URL]http://www.gnjp.org　[Facebook]facebook.com/gnjapan　[Twitter]@GNJapan